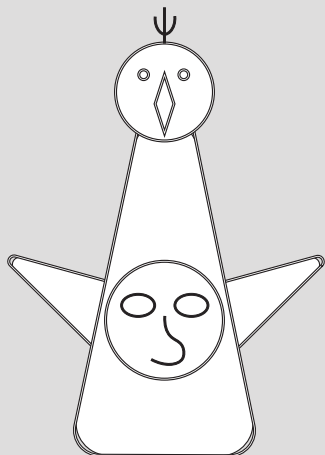


今日、太陽の塔 行かん？



みなさんご存じの「太陽の塔」ですが、実際にご覧になったことはありますか？ 姿かたちは思い浮かんでも、実物を見たことのある人は案外少ないのではないのでしょうか。この記事では、太陽の塔の情報や魅力について紹介しています。この記事を読んで興味を持たれた方は、ぜひ太陽の塔を見に行ってみてください。

<概略>

太陽の塔は1970年に大阪で開催された万国博覧会にテーマ館（テーマは「人類の進歩と調和」）として展示された作品。デザインは芸術家の岡本太郎氏によって監修された。約70メートルの塔に手と顔がついたような形をしている。

内部空間は展示スペースとなっており、鉄鋼で作られた「生命の樹」が展示されている。来場客はそれを螺旋階段やエレベーターから鑑賞することができる。

万博当時は「生命の神秘」がテーマの地下展示、「現代のエネルギー」がテーマの地上展示、「未来の空間」がテーマの空中展示と3層にわたる展示空間があった。しかし、現在は地下展示は埋められている。

また、今では太陽の塔の周囲は万博記念公園として整備され、訪れた人たちの憩いの場となっている。

<入場料>

大人720円、小中学生310円
※太陽の塔入館のみ（自然公園・日本庭園共通入場料は別）

<開館時間>

10：00～17：00（水曜日休館）

<アクセス>

大阪モノレール「万博記念公園駅」より徒歩8分



見どころいろいろ

① 生命の樹

樹木を模したオブジェで、太陽の塔内部に設置されている。枝や幹はカラフルに着色されており、根元から先端にかけて単細胞生物から人間までの進化をたどるように生物模型が配置されている。太陽の塔内部では螺旋階段を登りながらこの樹を鑑賞できるようになっている。



② 太陽の顔

太陽の塔の外側には、頭頂部の「黄金の顔」、腹部の「太陽の顔」、背面の「黒い太陽」という3つの「顔」がついており、それぞれ未来、現在、過去を表しているとされている。加えて、万博当時は地下に「地底の太陽」という4つ目の顔があった。現在では失われてしまったが、復元されたものを見ることができる。

③ 周辺施設

太陽の塔の周辺には多数の観光スポットがある。太陽の塔が位置する万博記念公園は、庭園などの文化施設やアスレチックなどのレジャー施設を備えた公園である。また、近くには様々なエンターテインメントを楽しめる大型複合施設であるららぽーとEXPOCITYがある。太陽の塔を訪れる人は、これらの周辺施設を楽しむこともできる。

いかがでしたか？ この記事で太陽の塔に興味を持っていただけたら嬉しいです。太陽の塔は芸術作品です。実際に見て初めてその魅力を十分に感じることができるでしょう。機会があれば、訪れてみてはいかがでしょうか。（けいた）